

によって成立していたといえる。

一方、真理とは、暫定的な合意にすぎず、常にコミュニケーションによって更新される必要があります、その知の社会的な構成に参加することが学習だと考えると、学びの理想的なあり様は一変する。つまり構成主義的知識観では、学びとは現実的な課題を探究する協同的な探究活動に参加するプロジェクト型の学習形態となる。

この学習様態では、既存の知識を暗記することよりも、他者と協力して新しい知恵を構成することが重視される。また、決まった正解などない現実的な課題に学習者が取り組み、課題を批判的・多角的に考察し、他者と協力して課題解決を試みる探究活動の中で、コミュニケーション力や批判的思考力や行動力などの社会で生きる力（本書第12章、第13章で詳述されるコンピテンシー）の獲得が期待されるのである（表参照）。

表●知の見方と学びの二つの類型（学習形態と獲得能力）

<p>A：知識の客観主義＝知識・真理は実在し、客観的に把握できる 知識は、個人の頭の中に蓄えるもの 学び＝所与の知識や技能を個人が獲得・貯蓄すること</p> <p>→習得型（プログラム型：系統的な学習形態） 個人のアchievementを知識の再現性で検証</p>
<p>B：知識の構成主義＝知識・真理とは、相互作用で構成された合意 知識は、コミュニケーションによって更新されるもの 学び＝社会的に知を構成する協同実践にかかわること</p> <p>→探究型（プロジェクト型：課題解決的な学習形態） コンピテンシーを活動自体から獲得する</p>

（筆者作成）